

# 教室から世界へ！かごしまグローバルクラスルーム事業 海外派遣 報告書 — ベトナム編

○ 日程：令和5年10月9日（月）～10月14日（土）（5泊6日）

○ 行程表：

日付	内容
10月9日（月）	出発
10月10日（火）	■ 実地研修 メコン川クルーズ クチトンネル見学
10月11日（水）	■ 学校訪問 Ernst Thalmann（テンロマン）高校 （交流会、授業体験、フィールドワーク等）
10月12日（木）	■ 学校訪問 THPT Việt Nhật Japanese-Vietnamese High School （交流会、授業体験、体験活動等） ■ 実地研修 中央郵便局、サイゴン大教会 ペンタン市場（見学のみ） サイゴンリバーポート散策
10月13日（金）	■ 企業訪問 湖池屋 ロートメンソレータム
10月14日（土）	帰国



Ernst Thalmann（テンロマン）高校交流



THPT Việt Nhật  
Japanese-Vietnamese High School 交流



企業訪問（湖池屋）

## ○ 生徒の報告

### 「初体験のベトナム1日目」

ベトナム1日目、クチトンネルへ行き、実際にトンネルの中に入ったことが特に印象に残っている。私が入ることができたトンネルは、その周辺では一番広いトンネルと聞いていたので、立って歩けるくらいだろうと想像していた。しかし、想像していたよりもその幅は狭く、圧迫感のあるトンネルだった。たった20メートルだったが、とても長く感じた。昔、ベトナムの人々が使用していたこと、そこで暮らしていたことが驚きだった。

この日の昼食がベトナムに着いて初めての食事だったので、楽しみと同時に、少し緊張（不安）もあった。ドキドキしながら料理を待つと、エレファントイヤーフイッシュや春巻きなどのベトナム料理が出てきた。どの料理も楽しむことができ、日本との食文化の違いを感じた。

午後からはメコン川クルーズに参加し、キリン島というホーチミンから離れたところへ向かった。現地の植物や特産品を見ることができ、世界が広がったように感じた。帰りの船の中では、初体験のココナッツジュースを飲むことができた。キリン島の中で、小さい船に乗ったときは、周りはジャングルのような雰囲気、少し揺れながら進み、スリルがあり、少し怖かったが、貴重な体験ができた。

研修初日は、同じメンバーとの仲を深めたり、ベトナムの雰囲気に慣れたりする中で、様々な発見や驚きがあり、魅力に気づけた中身の濃い1日だった。（横川中学校 久保）



## 「テンロマン高校への訪問」

翌日の午前中、ホーチミン市内にあるテンロマン高校を訪問し、生徒たちと交流をした。校門をくぐった瞬間に大きな拍手で出迎えられ、少し照れくさい気持ちと緊張が入り交じったように感じつつ、交流がスタートした。

まず、お互いの国（地域）についての紹介を英語で行った。初めての発表だったので鹿児島からの参加者は皆緊張でガチガチだったが、発表が進むにつれ、テンロマン高校の生徒たちが反応してくれたおかげで、最後は皆、笑顔で発表を終えることができた。

次に、テンロマン高校の授業を受けることになった。最初の授業は英語の授業であり、英単語の意味を英語で説明していたことが一番印象に残っている。次に、体育の授業に参加した。バスケットボールをした後、ベトナムでまさかの「綱引き」をした。ベトナムに来てまで綱引きをするとは思っておらず、私たちは戸惑いながらも、テンロマン高校の生徒たちの間に入って綱引きをした。

その後の交流では、日本の折り紙とベトナムの棒遊びをした。鶴の折り方を英語で説明することが難しかったが、知っている英語をフルで活用し、どうにか伝えることができた。自分の英語が伝わった時はとても嬉しく、また、自信がついた。ベトナムの棒遊びでは、動く棒を飛び越えることがとても難しく、何回も棒に足を挟まれた。

最後に記念撮影をしてテンロマン高校の生徒たちと別れた。どの内容もとても貴重な体験だった。  
(徳之島高校 峰岡)



## 「Brother&Sister プログラムから学んだこと」

テンロマン高校訪問の後、私たちは訪問した学校の生徒代表の2名とベトナムの町を散策した。

まず、昼食を食べに行った。私はベトナムの生徒とできるだけ多く会話がしたかったので、彼らの向かい側の席に座った。始めは緊張して自分から話しかけることができず、悔しい思いをした。ただ、ベトナムの生徒から沢山話しかけてくれたので、とても楽しく会話することができた。

次に、ビンコムセンターでショッピングへ出かけた。2グループに分かれて行動した。私は昼食の時の悔しさを生かして、ベトナムの生徒や現地の店員にも英語で積極的に質問をした。自分の英語が伝わり、とても嬉しかった。

その後、ドンコイ通りを散策した。散策している時に、ベトナムの生徒から質問をされた。私は文章にして答えることができなかったが、どうにか伝えようと単語を組み合わせて答えた。すると、相手が笑顔で反応してくれたことが嬉しく、挑戦したことに対して達成感で胸がいっぱいになった。

その後の移動中、私はバスの中でもベトナムの生徒の隣の席に座った。話をすると、同じアニメが好きで、会話が盛り上がった。お互いを理解し合えたことを感じ、最高の時間だった。

私はこのプログラムから多くのことを学んだ。特に、たとえ完璧な文章で伝えようとしなくても、単語を組み合わるなどして、相手に伝えようとするれば、相手に気持ちが伝わるということを学んだ。今回の経験をこれから出会う海外の方々との交流や自分の英語の学習、日常生活に生かしていきたい。

(中央中学校 藤原)



## 「2校目の学校訪問にて」

私たちが訪問した2校目の学校は、日本語の授業も行われている高校だった。学校に着くと生徒の皆さんが「こんにちは」と日本語で迎え入れてくれた。その後、私たちは英語で鹿児島のことを紹介するプレゼンテーションをしたり、一緒にベトナムのダンスを踊ったり、ベトナムの生徒が日本語の歌を歌ってくれたりした。

また、ベトナムの方がよく被っている傘の装飾体験をベトナムの生徒とグループで行った。装飾体験を一緒にしていく中で、「ここは何色で塗るの？」など分からない点を英語で質問したり、「ベトナムで有名な食べ物は？」など尋ねたり、英語でコミュニケーションを取ることができた。通じ合うことを実感でき嬉しかった。

その後は、ベトナムの生徒と一緒に昼食を食べた。メニューはベトナム料理のフォーと揚げ春巻き、そしてココナッツジュースだった。ココナッツジュースはココナッツの実にそのままストローを差して飲んだ。とても甘くて美味しかった。また、フォーの食べ方を、ベトナムの生徒に英語で教えてもらった。昼食の間でも英語で沢山コミュニケーションを取ることができた。交流の最後には、互いの国のお菓子を交換したり、写真撮影をしたりした。

交流をとおして、多くのベトナムの生徒と友人になることができた。ベトナムの生徒はとてもフレンドリーで、話しやすかった。コミュニケーションを取ることが苦手な私でも、様々な場面でコミュニケーションをとることができ、成長することができたと感じた。充実した学校訪問となった。

(高尾野中学校 肝付)



## 「ロート製薬への企業訪問で学んだこと」

企業訪問ということで、私たちはロート・メンソレータム・ベトナム社へ研修に行った。ロート製薬では、まず初めに、会社の概要について説明を聞いた。次に、白衣やマスクなど厳重な装備のもと、工場内を見学した。工場内には多くの荷物が積まれていたり、色々な色のテープが張り巡らされていたり、菌が入らないように人が全く立ち入ることができない機械のみの部屋があったりした。初めての経験だったので、まるでSF映画のようだった。また、製薬だけでなく労働環境の整備や機械化にも力を入れていた。例えば、労働環境を知ってもらえるように新入社員の家族を会社に招待する取り組みや、社員の家族を招き、映画館を貸し切った忘年会の開催、入社時にカードのスキャンによって仕事の割り振りを確認したり、昼食を食べきれぬ量だけ注文したりするための個人カードシステムの導入など、書ききれないほど多くの取り組みがなされていた。

私はやりたい仕事や将来の夢が決まっていなかったが、ロート製薬を見学し、将来働いたらこのような会社がいいと思った。これを機に薬剤師について、詳しく調べてみようと思った。

(種子島中央高校 川下)



## 「湖池屋での現地視察」

ロート製菓を訪問した後、私たちは同じく日本の企業である「湖池屋」を視察した。

まず、会議室にて現地の代表や社員の方々と対談することができた。そこで、工場内の施設の説明を受けたり、代表や社員の方々の勤務や海外での生活について話を聞いたりした。工場内では、ポテトチップスやスナック菓子を中心として作っており、様々なフレーバーが製造されていた。日本でも売っているものやベトナム限定のフレーバーなどもあり、販売する国によってその国の特徴にあったフレーバーを採用しているとのことだった。

説明の後、実際に工場を見学することができた。衛生管理のための防護服のような白衣に着替え、靴も履き替え、工場内へ入った。工場内では、多くの機械と熱気がとても印象的だった。常に何かしらの機械が動いており、凄まじい熱気が充満していて、私たちは気分が高まっていった。一つ一つ機械の前で何をやる機械なのか、どのようにして使われているのかを分かりやすく説明してくださった。見聞きする一つ一つに新しい発見のある見学だった。

一から説明してくださり、私たちの質問にも何度も答えてくださった現地の代表は日本人であり、赴任当初は英語もベトナム語も分からず、現地の社員とのコミュニケーションもままならなかった時があったと言われた。しかし、私は、代表がとても丁寧で仕事や社員に対する愛情が伝わってくる方だと見学をとおして感じた。

今回の視察をとおして、言語学習やコミュニケーションには、「自分から学びたい」とか「誰かと話したい」などの目標やゴールを決めて取り組む姿勢が大切だと感じた。(明桜館高校 山崎)



## 「派遣団としての成長」

今回の研修をとおして、まず、研修に行った全員が研修に行く前より確実に成長できたと思う。初日はクチトンネルやメコン川クルーズへ行き、現地の人にベトナム語や英語で挨拶をしたり、英語で説明を聞いたりして、全員が積極的に活動した。また、お互いに協力し合い、安全に行動できたと思う。

2日目、3日目には学校訪問に行った。それぞれの学校で、私たちが準備をしていた鹿児島を紹介するプレゼンテーションを行った。1校目の学校での発表の反省を生かし、2校目では、相手に伝わるように各自工夫してプレゼンをすることができた。また、同年代のベトナムの生徒と交流して、アニメの話や互いの学校の話で盛り上がることもできた。

企業訪問では気になったことを全員が積極的に質問した。これからの進路に参考になるような話を聞くことができ、新しい発見がそれぞれにあった。

研修に参加することができ、現地の人とできる限り英語を使って会話しようとした。今まで授業で習ってきた表現を実際を使ってみたり、自分の伝えたいことをどうしたらうまく伝えられるか自分なりに考えたりして工夫しながらコミュニケーションを図った。日本と違うところも見たり、聞いたりして知ることができ、国際的な視点で物事をみることができるようになり、考え方も柔軟になったと思う。貴重な経験をする事ができた研修だった。

(鹿屋工業高校 山崎)

